

学生の学修状況を段階的に把握するための方法についての一覧表（別紙）

修得する学識と能力・素養	カリキュラム	把握時期	把握方法 1	把握方法2
（１）高度の専門性と深い学識 法曹になるために必要な専門的学識（専門的な法律知識その他の学識）を紛争解決の場面に応用し、状況に応じて柔軟かつ適切に運用できる思考力と判断力を有していること。	法律基本科目の基礎科目	1 年終了時	各科目の評価（教員コメント） GPA 共通到達度確認試験	教員及び広島弁護士会の弁護士による授業参観 共通到達度確認試験後の個別面談 学生による授業改善アンケート 学生と教員との意見交換会
		2 年終了時	各科目の評価（教員コメント） GPA	
（２）将来の法曹としての実務に必要な専門的学識とその応用能力 法の定めや先例がない問題領域においても、事実在即して具体的な法的解決策を分析し、専門的学識を発展させていく創造的な思考力と判断力を有していること。	法律基本科目の応用科目	3 年在学中	重点演習 1 と重点演習 2 以降の評価の推移 GPA	客員教員との拡大FD 科目別の教員会議（FD） 学生による授業改善アンケート 学生と教員との意見交換会
（３）豊かな人間性と幅広い教養 充実した法的支援とサービスを提供する「国民の社会生活上の医師」として、優れたコミュニケーション能力とともに、社会や人間関係に対する洞察力と豊かな人間性を有していること。	基礎法学・隣接科目 展開・先端科目	2 年終了時 3 年在学中	授業中の発言・積極性 学生による自主ゼミ等の開催 リーガルフェローゼミへの参加状況	リーガルフェローゼミの担当弁護士からのフィードバック
（４）高度専門職業人たる法曹としての職業倫理 法曹としての責任感と十分な職業倫理を身につけ、法律に関する実務の基礎的素養を身につけていること。	実務基礎科目	3 年在学中	法曹倫理 リーガル・クリニック（法律相談） エクスターンシップ 模擬裁判等の実務系科目の評価	エクスターンシップの担当弁護士からのフィードバック 法律相談依頼者からのコメント 臨床法務のコメントペーパー
（５）平和を希求する精神 高度専門職業人たる法曹として、自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとするグローバルな視野や総合的な判断力を有し、その基礎的素養を身につけていること。	大学院共通科目 基礎法学・隣接科目	3 年終了時	平和科目（Hiroshima から世界平和を考える）及びアジア法の履修状況	担当教員からのフィードバック